

# 平成29年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

北海道ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて12頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題 1 登録基幹技能者制度の意義と役割に関して、最も不適当なものはどれか。**

登録基幹技能者は、1. 熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるための 2. マネジメント能力に優れた技能者で、3. 文部科学大臣が登録した機関の資格認定を受けた者を言い、現場では、いわゆる 4. 上級職長などとして、元請の計画・管理業務に参画し、補佐することが期待されている。

1. 熟達した作業能力と豊富な知識
2. マネジメント能力に優れた技能者
3. 文部科学大臣が登録した機関の資格認定を受けた者
4. 上級職長などとして元請の計画・管理業務に参画し補佐すること

**問題 2 登録左官基幹技能者認定講習会の受講要件に関して、最も不適当なものはどれか。**

国土交通大臣が登録した機関が実施する登録左官基幹技能者講習の修了者は、1. 登録左官基幹技能者として認められる。受講資格要件は、2. 10年以上の実務経験（左官職種）、3. 職長経験年数が3年以上、4. (一社)日本建設業連合会において定めている資格等の保有（1級左官技能士、2級建築施工管理技士(仕上げ)、職業訓練指導員）である。

1. 登録左官基幹技能者
2. 10年以上の実務経験（左官職種）
3. 職長経験年数が3年以上
4. (一社)日本建設業連合会において定めている資格等の保有

**問題3 登録基幹技能者の確保・育成の意義に関して、最も不適当なものはどれか。**

登録基幹技能者は工事の生産性の向上や1. 施工速度面でスピード感のある施工をするために大きな役割を担う。こうした登録基幹技能者を 確保・育成・活用を促進することにより、2. 建設生産現場の生産性の向上・3. 建設生産物の品質の確保のみならず、登録基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会の拡大が図られ、さらにはそれを通じた4. 建設産業の担い手の確保・育成に大きく寄与することが期待されている。

1. 施工速度面でスピード感のある施工
2. 建設生産現場の生産性の向上
3. 建設生産物の品質の確保
4. 建設産業の担い手の確保・育成に大きく寄与

**問題4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。**

登録基幹技能者がその役割を遂行するためには、専門的な作業能力はもちろん、1. 安く・早く・上手くなど幅広い分野における多彩な能力が求められている。登録基幹技能者に求められる能力は、2. 十分な経験を有し、熟達した作業能力、3. 技術の進展等に的確に対応した知識、4. 現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力、である。

1. 安く・早く・上手く
2. 十分な経験を有し、熟達した作業能力
3. 技術の進展等に的確に対応した知識
4. 現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力

**問題5 登録基幹技能者の評価・活用に関して、最も不適当なものはどれか。**

登録基幹技能者の公共工事の総合評価における評価・活用について、国道交通省では、1. 北海道開発局が最初に導入し、現在ではすべての 2. 国土交通省 地方整備局が導入している。また、都道府県・政令指定都市では、3. 長崎県が最初に導入した。さらに、都市再生機構が導入しており、4. アベノミクスにおける登録基幹技能者の評価・活用は着実に進んでいる。

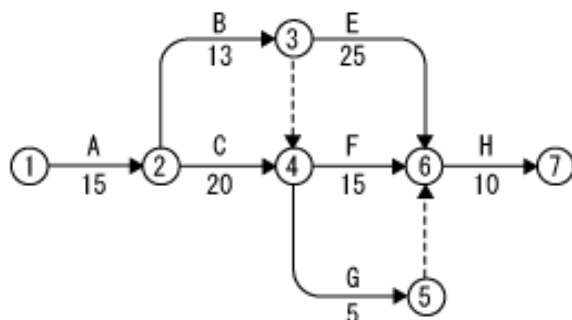
1. 北海道開発局
2. 国土交通省 地方整備局
3. 長崎県
4. アベノミクス

**問題6 レベルに応じた技能者の指導・教育に関して、最も不適当なものはどれか。**

登録基幹技能者にとって、1. 部下となる技能者の指導・教育を行うことも重要な役割である。実際の作業手順・方法といった現場作業に関することは、2. 熟練技能者が指導しなければならない。指導で部下の能力等を向上させる基本的な手法としては、「教える」、「3. 見習わせる」、「経験させる」、「4. 自己啓発を行わせる」等が重要である。

1. 部下となる技能者の指導・教育を行う
2. 熟練技能者が指導
3. 見習わせる
4. 自己啓発を行わせる

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. クリティカルパスは、A→B→ F→H である。
2. この現場の工期は、63 日である。
3. G 作業の最早開始時刻(EST)は 28 日である。
4. E 作業の最大の余裕日数 (TF) は 0 日である。

問題8 建設業法遵守ガイドラインの内容に関して、最も不適当なものはどれか。

建設業法遵守ガイドラインは、元請下請間の取引適正化を推進してきたところであるが、1. 赤伝処理等による適正取引、2. 指値発注による不適切な下請取引、3. 追加・変更契約の締結拒否、4. 下請負人の責に帰さないやり直し工事の強制、正当な理由がない長期間にわたる支払保留等、下請負人へのしわよせが依然として存在するとの指摘がなされているところである。こうした状況は、技能労働者への適切な賃金水準が確保できなくなるなど、建設産業が持続的な発展を遂げる上での阻害要因になりかねない。

1. 赤伝処理等による適正取引
2. 指値発注による不適切な下請取引
3. 追加・変更契約の締結拒否
4. 下請負人の責に帰さないやり直し工事の強制

**問題 9** 赤伝処理による建設業法違反のおそれがある行為事例の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 元請負人が一方的に提供・貸与した安全衛生保護具等の費用を下請負人に負担させ、下請代金から差し引く場合
2. 下請代金の支払いに関して発生する振込手数料等の諸費用を下請代金から差し引く場合
3. 下請工事の施工に伴い、副次的に発生する建設廃棄物の処理費用を元請負人がすべて負担した場合
4. 建設現場における下請が使用する駐車場代、弁当ごみ等のごみ処理費用、安全協定会費等を下請代金から差し引く場合

**問題 10** ブレインストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BS とは、グループのメンバーが、ある問題について自由にアイデアを出し合うことである
2. BS では、上司の意見を聞いてそれに従うこと、あるいは他人の意見に上司のアイデアを加えて新しい意見としてまとめることが良くある
3. BS でカード化された多くの意見・アイデアをグループ化し、論理的に整序して問題解決の道筋を明らかにしていくために特性要因図が用いられる
4. BS を行う際には、「質より量」が原則であり、できるだけ多くのアイデアを出すことを優先させる

**問題 11** 単層下地通気構法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 通気層より躯体側の防水紙は、透湿防水シートとする。
2. ステープルは、T線以上の線径で、脚長を19mm以上のものとする。
3. 質量800g/m<sup>2</sup>以上のリブラス、リブ系ラス、防水紙付きリブ系ラス、または同等以上の性能を有するものとする。
4. 防水紙は鎧張りで、継ぎ目部は幅90mm以上重ねる。

**問題 1 2 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれぞれの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか**

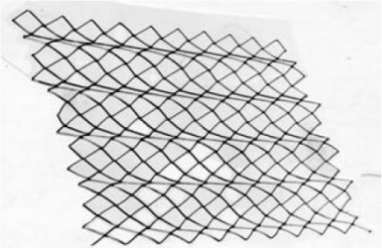
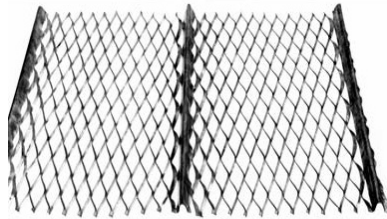

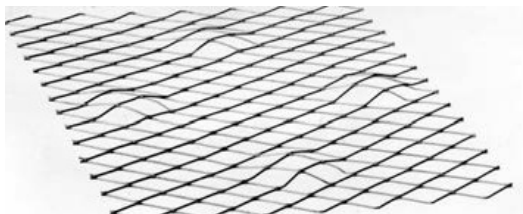
1. 下地の吸水が激しいときは、給水調整材を 4～5 倍液にして下地に塗布する。
2. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。
3. 富調合による上塗りは、ひび割れや剥離を発生させるので、下塗りほど貧調合にする。
4. 未乾燥のセメントモルタルにせっこうプラスターを塗り付けると、はく離やひび割れが発生するので、セメントモルタルを十分に乾燥させてから塗り付ける。

**問題 1 3 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、  
2. その境界面では、 3. 異なった変形挙動がおきる。 これを 4. モイスチャームーブメント という。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁
2. その境界面
3. 異なった変形挙動
4. モイスチャームーブメント

問題 1 4 1 から 4 のラスの名称と図の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

	ラスの名称	図
1.	波形ラス	
2.	リブラス	
3.	ラスシート	
4.	こぶラス	

問題 1 5 現場打ちコンクリート下地に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 開口部、ひび割れ誘発目地、構造スリットなどの位置や形状について施工図との適合性を確認する。
2. 下塗りに先立ち、コンクリートが、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがある場合は、監理者に報告し、是正作業にかかる。
3. 型枠は完全に取り外された状態であり、せき板の残材や過度のはく離剤付着などの接着上有害な残存物のない状態とすること。
4. コンクリートは、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などが、適切に補修されている状態とすること。



問題 16 JIS A 6909(建築用仕上塗材)の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 内装薄塗材Cとは、内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材のことである。
2. 内装厚塗材Gとは、内装せっこう系厚付け仕上塗材のことである。
3. 外装薄塗材Eとは、外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材のことである。
4. 内装薄塗材Wとは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。

問題 17 左官用語の解説に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. スラリーとは、液体中に細かい固体粒子が濃厚に混合され、かつ安定の状態にあるものをいう。
2. セルフレベリングとは、流しこむだけで平坦になる性質をいう。
3. グラウトとは、ひび割部にセメントペースト等の結合材を注入することをいう。
4. シーリング材料はひび割れや隙間を充填する詰め物の材料をいう。

問題 18 用語の定義で、**最も不適当なものはどれか。**

1. ジャンカとは型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
2. 硬化不良とはコンクリートが予定の日数を経て、十分に硬化する筈であるのに、全く硬化せず、壁や床の躯体としての性能の硬さに至らないことである。
3. コールドジョイントとはコンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。
4. 白華とは「ブリージング」ともいい、レンガ目地、コンクリート等の表面に発生する結晶化した白色の物質のことである。

**問題 19 仮設工事計画の概要に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 仮設は工事を進めていく上での重要な工種で、工事完成後、原則残置させるものである。
2. 一般に仮設は、本工事とは異なり指定された設計図はなく、施工業者の技術と工夫、改善の余地が残されているので、工事規模に対して過大あるいは過小とならないよう十分検討し、必要かつムダのない合理的な計画を立てる。
3. 仮設という呼び方につられて、ややもすると手を抜いたりおろそかになったりしやすく、事故の原因となって、かえって多くの費用が必要となる場合がある。
4. 仮設は使用目的・使用期間等に応じてその計画を設計し、作業中の衝撃・振動等を十分考慮に入れた設計荷重で強度計算を行い、また労働安全衛生法に基づいた計画を立てる。

**問題 20 搬入計画における揚重計画に関して、最も不適当なものはどれか。**

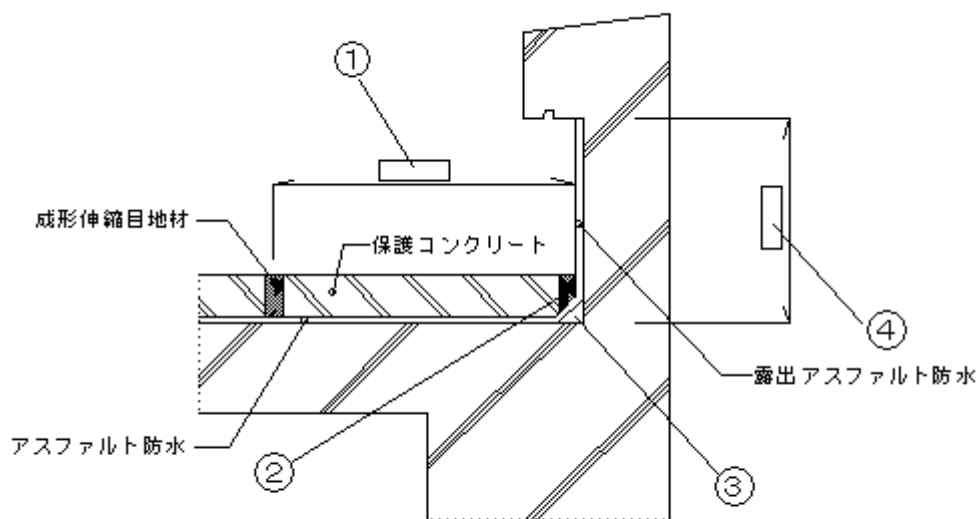
1. 資材によってどの揚重機器が最適か検討する。
2. 揚重機器の荷重制限、寸法制限を把握し、資材の大きさ、重量、数量等から荷姿、梱包方法を検討する。
3. 揚重機器の効率（揚重回数、時間）を考えて計画する。
4. 資材の保管場所は、その工種の作業場にできるだけ近い場所に設置する。

**問題 21 見積原価の管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 土質、周囲の環境、近隣協定、駐車場の有無等、自社の施工に影響する現場条件を確認する。
2. 設計図書で不明確な点や、図面間の相違点などがあれば、あらかじめ質疑をする。
3. 積算業務における数量は、設計図書から拾い出すのではなく、与えられた数量に実勢単価を乗じて算出する。
4. 支給品の有無や、他工区との取り合い部分の施工など、施工範囲を明確化する。

問題 2 2 下図のような、パラペット立上り部での、アスファルト防水及び保護コンクリートの施工について、最も不適当なものはどれか。

1. ③のように、アスファルト防水は直角に折れ曲がる入隅施工が困難であり、また、防水層の切れを保護するためにもモルタル等で面を取る必要がある
2. ④の部分の高さは、防水性能を維持するためにも、30cm以下にすることが望ましい。
3. ①の寸法は、一般的に立上りコンクリートより600mm程度の位置に取り付ける。
4. ②のように、保護コンクリートと立上りコンクリートとの取り合い部は防水材を傷めないよう成形緩衝材を取付ける。



パラヘット部分詳細図

**問題 2 3 わが国建設業における労働災害の現状について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。**

1. 労働災害とは、労働者が就業中に負傷や死亡する災害であり、疾病は労働災害に該当しない。
2. 建設業の安全対策が難しい理由の一つは、作業内容が日々変化するため慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。
3. 労働災害減少の主要因のひとつとして、発注者による安全施工に関わる各種技術基準の整備が挙げられる。
4. 死亡災害を事故の型別で見ると、建設工事全体では墜落事故が約 39.5%と最も多い。

**問題 2 4 法で定められた建設現場における安全管理について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。**

1. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努めなければならない。
2. 高さが 10m の足場の解体作業には、作業主任者を選任する必要がない。
3. 複数業者が混在する 50 人以上の建設現場では、安全管理のために元請業者は統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
4. 元請業者は、現場で新たに就労する作業員に対し雇入時教育を行う必要がある。

**問題 2 5 各種労働災害防止について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。**

1. 脚立やはしごの安全対策は、正しい設置と使い方をするることである。
2. 高さが 2m 以上の所での作業には、基本的に作業床を設置する必要がある。
3. 一般に、解体工事は短期間で終わるので、石綿による健康障害防止対策を考えなくとも良い。
4. リフォーム工事は、既存建物、少額予算のため必要な安全設備が設置できないことが懸念される。